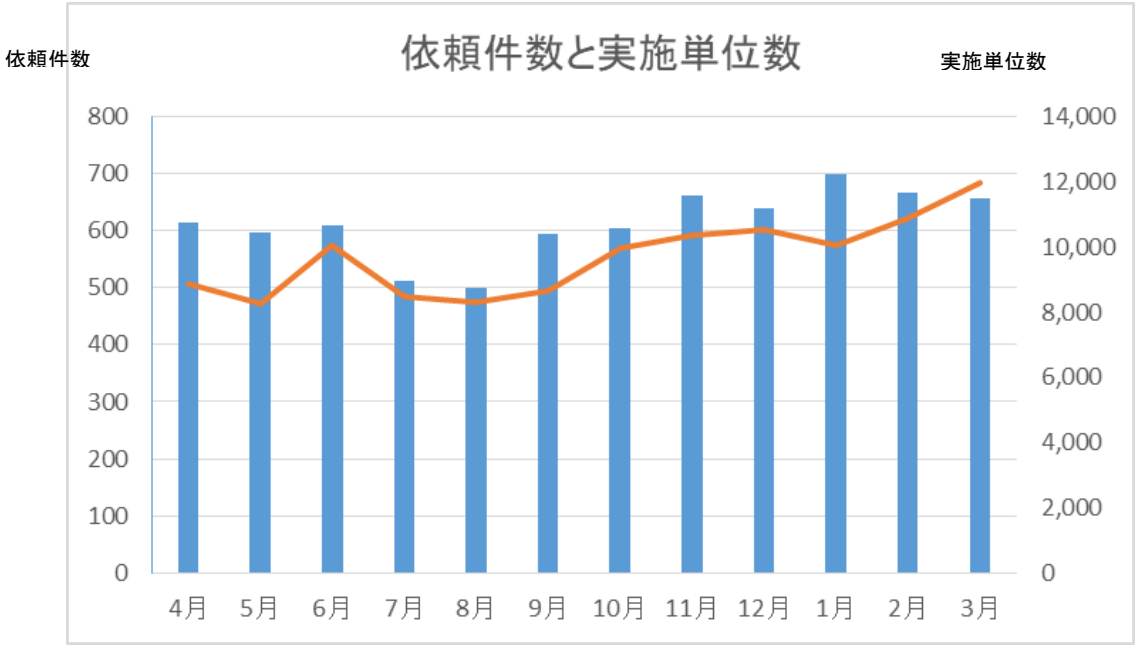
リハビリテーション科

リハビリテーション科は常勤医師１名、理学療法士（PT）26 名、作業療法士（OT）10 名、言語聴覚士（ST）７名、マッサージ師１名、事務員１名体制でリハビリテーションに従事している。2022 年５月に４階から５階へ移動となり、各療法スペースや物品の配置が大きく変化した。2022 年度も昨年度に引き続き新型コロナ感染症の影響が大きかった。

各診療科から３療法へのリハ依頼件数は 500～700 件/月、全体での取得単位数は、8,000～12,000 単位/月と変動が大きかった。新型コロナ感染症に対する緊急事態宣言、入院患者数の減少、リハ対象者数の減少、提供リハ実施単位数の制限、リハスタッフの感染や濃厚接触者としての就業規制などが関与している。



＜理学療法部門＞

【中枢チーム】

中枢チームは PT6-7 名（内ローテーター　2-3 名）にて主に脳神経外科、脳神経内科の患者診療にあたった。主として脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊椎疾患の保存療法や手術療法に対する術前後のリハビリテーションや、パーキンソン病やパーキンソン症候群、ギランバレー症候群、髄膜炎、神経難病などに対するリハビリテーションを PT・OT・ST 間で連携をとりながら実施した。また、前年度より FUS 治療が開始となり、治療前後のリハビリテーション評価を実施し、脳外科医と評価内容の共有も行っている。前年度に引き続き、第２・４土曜日に SCU 専任理学療法士が出勤し、週 6 日のリハビリテーションを提供すると共に、看護師と介助方法や転帰に向けた問題点を共有し、早期退院を目指した介入を継続できている。脳外科病棟・脳神経内科病棟にて行っているリハビリカンファレンスでは、病棟スタッフとリハスタッフが患者様の目標を共有し、退院後の生活を見据えて、運動面だけでなく高次脳機能障害や ADL 障害に対

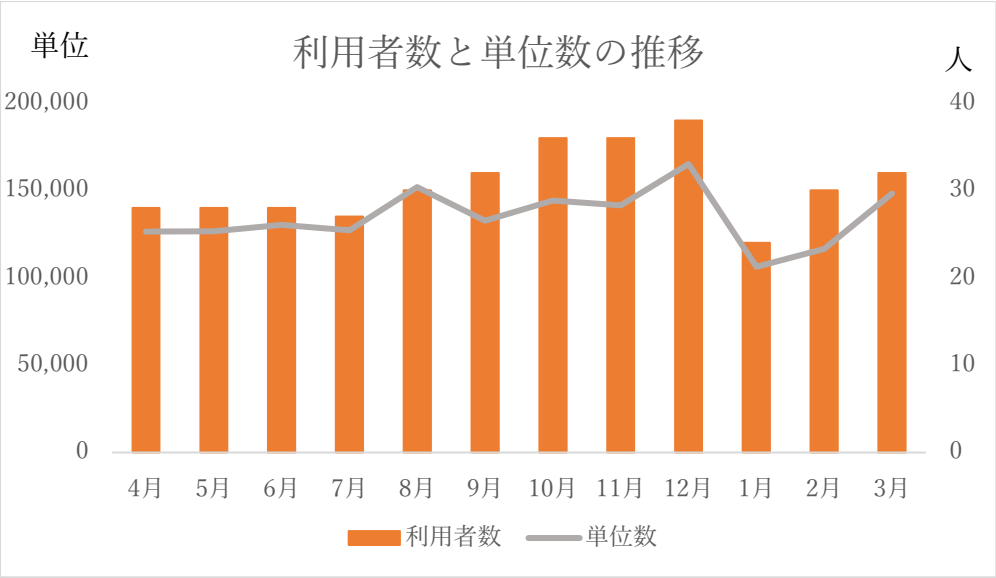
しての介入を継続できている。
前年度と同様、院内の感染対策に則り、対面でのチームカンファレンスや実技練習が行えない時期は、紙面でのカンファレンスを行い、教育・研鑽の機会が減少しないよう努めた。また学会発表も行い、院外のスタッフとの意見交換も行った。

【内部チーム】
内科系では呼吸器・循環器・消化器・腎臓・血液内科を中心に、その他幅広い科から、廃用症候群の改善や予防を主な目的とした理学療法を実施した。コロナ病棟に関しては感染対策をはかりながら直接介入を開始し、入院中の身体機能維持に努めた。外科系では、消化器・呼吸器・心臓血管外科を中心に術前介入、ICU からの術後早期介入を実施した。離床難渋症例に関しては他職種とのカンファレンスを開催し、ADL 低下予防に努めた。また、コロナ禍ではあったが、自宅退院前の情報共有を目的とした退院前カンファレンスを Web で開催し、退院後の生活が安全に送られるよう取り組んだ。訪問チームと密に連携を取り、入院から退院後までリハビリテーションを提供できる体制を構築した。教育に関しては、サポートを行いながら学会発表や研修参加など、各々興味のある分野を追求できるよう指導した。科内のケースカンファレンス(1 回/週)では、様々な視点からアドバイスし、臨床に活かせるよう取り組んだ。

【整形チーム】
PT4-5名・マッサージ師1名にて,脊椎疾患(頚椎・胸椎・腰椎)、関節外科(人工膝関節全置換術, 人工股関節全置換術), 各種外傷(脊椎・上肢・下肢の骨折など), 転移性骨腫瘍を主な対象とし,発症/手術直後より障害の機能改善と予防,生活の質の向上を目標にリハビリテーションを実施した。整形外科医や病棟との連携においては, 前十字靱帯 (ACL) 再建術後のリハビリテーションプロトコルの作成・整形外科回診への帯同・看護師との週末リハビリテーションカンファレンスにて情報共有を行った。
COVID-19に伴う規制緩和後は,外来リハビリテーションの診療枠を拡大し,外来リハビリテーションの充実を図った。また,最新の知見ならびに科学的な根拠に基づいた治療を提供できるよう各種研修会への参加や整形外科関連学会への演題発表にも取り組んだ。

【訪問チーム】
訪問チームはPT3名、OT1名、ST1名在籍し活動している。1月あたりの平均利用者数は31名。1月あたりの平均単位数は134,718単位であった（図1参照）。疾患内訳は呼吸器25%、循環器20%、がん関連5%、脳神経20%、整形外科15%、その他5%であった。退院後の訪問リハビリテーション（訪問リハ）開始までは平均4.0日であった。これまで北区・都島区を中心に訪問していたが、訪問対象地域を当院より約5km範囲内へと拡大し、多くの利用者に退院後の自宅生活を安心して継続いただけるように、訪問リハを実施した。当院訪問リハ終了後には地域の周辺事業所と連携を積極的に行い、利用者のニーズに合わせ日常生活動作能力の維持・改善ができるように地域の各関連職種へ引き継ぎを行ってきた。学術・教育活動においては訪問スタッフの退職があり、業務引継やPT1名、OT1名のローテーター教育にも重点をおいて実施した。また、訪問スタッフの症例報告と訪問リハ利用者の退院後の生活状況について関連学会などへ発表し、院内スタッフとの連携や啓蒙活動だけでなく院外地域に対し当院訪問リハの取り組みを発信した（表1）。地域活動として北区地域包括支援センターなどへ介護予防を目的とした自

立支援会議をはじめ、地域活動へも積極的に参加している（北区自立支援型ケアマネジメント検討会議、「いきいき百歳体操ステップアップ講座」フレイル予防、北区ワハハ体操体験会）。



＜作業療法部門＞

作業療法（以下 OT）は、人の行う様々な作業（日常の活動）を用いてセルフケア・生産活動・余暇活動の回復を目的としている。当院では、脳神経外科・神経内科をはじめ、整形外科・リウマチ膠原病科・癌など幅広い疾患を対象に作業療法を実施している。病棟でも自主リハビリや ADL の向上を図れるよう、昨年度に引き続き看護師など他職種へのリハビリ進行具合の報告や自主訓練指導などを積極的に行い連携の強化をはかっている。自宅内での日常生活活動の支援をおこなうため訪問リハビリの必要性を検討し介入もおこなっている。2022 年度には院内で市民公開講座を開催し OT スタッフが認知症についての講習を行った。認知症予防のための運動や認知賦活方法についての紹介をおこなった。また OT チームでのカンファレンスや勉強会を開くことで、新人指導を重点的に行えるよう配慮し、科内におけるスキルアップにも努めている。

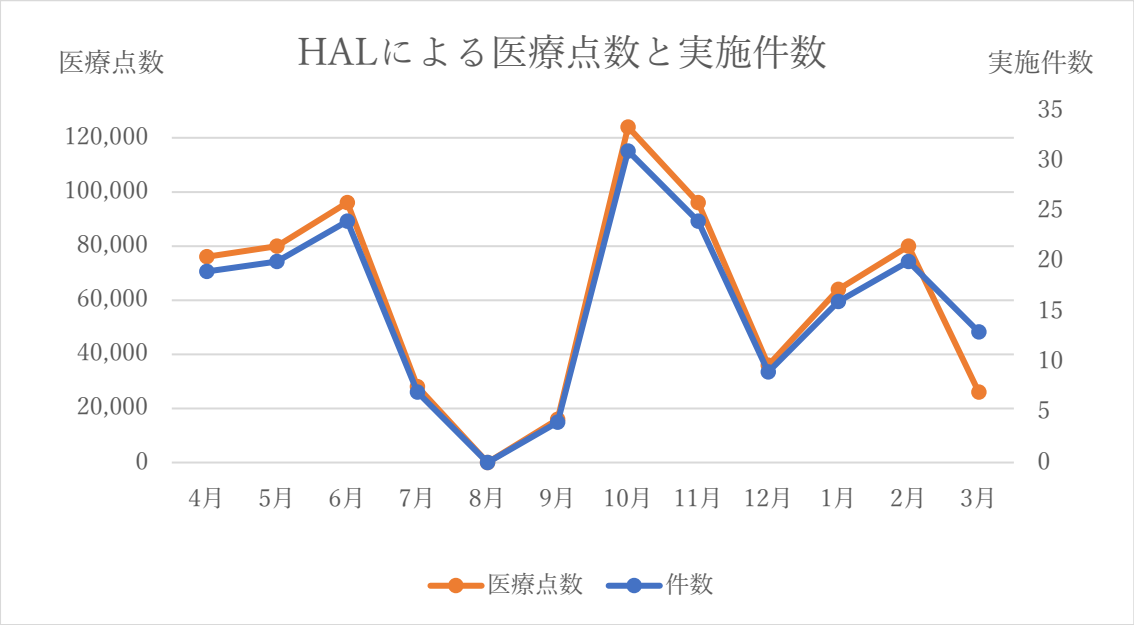
＜言語療法部門＞

言語療法では ST7 名が在籍している。脳神経外科、脳神経内科を中心に高次脳機能障害、失語症、構音障害、音声障害などのコミュニケーション障害や摂食・嚥下障害に対してのリハビリテーションを実施している。呼吸器・循環器・消化器を中心に幅広い科からのオーダーに対応している。嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査（耳鼻咽喉科での実施）での他覚的評価を行い、安全に嚥下訓練を進められる環境を整えている。コロナ禍の為、感染対策を行いながらの摂食嚥下訓練を病棟と協力しながら進めている。成人だけでなく小児分野でも活動しており哺乳を含めた嚥下評価、発達状況に応じてリハビリテーションを実施している。訪問リハビリ分野では、院内と訪問業務の兼任で活動しており、入院から地域につなげた介入を行っている。臨床業務に加えてＮＳＴ、口腔嚥下リハビリテーションチームにも所属し多職種との活動や病棟に対して摂食嚥下障害の勉強会開催にも取り組んでいる。

＜ロボットスーツ HAL 部門＞

HAL チームの体制は医師 1 名、ＰＴ8 名で、外来リハビリテーションとして実施している。2018 年度から近隣クリニックに対するリクルート活動を開始。また、当院ホームページにてＨＡＬの訓練動画や、実際に HAL のリハビリテーションを実施した患者様の感想などを掲載した。ホームページをみた患者様からの問い合わせの割合が増えてきている。近畿圏内で保険診療下・外来リハビリのみを展開しているのは当院だけである。

HAL の診療実績としては、対象者人数：13 名（内新規 3 名、非対象 1 名）。コロナ感染流行により 7 月中旬より一時中断としたが、9 月下旬より再開。元々実施していた患者様を中心に継続した。一人辺り、前後評価含め 1 クール 11 回、平均 14 回/月実施した。全国・近畿地区の HAL 導入施設と同等数の実施回数を提供した〔全国 15.3 回(2022/1～2022/12)、近畿地区 13.1 回(2022/1～2022/12)〕。



【学会】

1　鶴本一寿, 上坂建太, 吉田都, 浦慎太郎, 徳元翔子, 村司憲三朗, 河野風花, 本田憲胤, 大洞佳代子, 中根英策, 猪子森明
心不全患者における Phase angle と運動耐容能との関連
第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2022/6/11-12 沖縄（Web）

2　村司憲三朗, 豊浦尊真, 中上和洋, 野村知里, 本田憲胤, 大洞佳代子
急性から在宅までの継続したリハビリテーション介入により身体機能改善・活動性向上を認めた心不全患者の一例
第 34 回大阪府理学療法学術大会 44745 大阪

3　河野風花，上坂建太，吉田都，本田憲胤，大洞佳代子
心肺運動負荷試験（CPX）のクールダウン中に著明な血圧低下を認めた心不全患者
第 34 回大阪府理学療法学術大会 44745 大阪

4　嶋津鮎美，浦慎太朗，富謙伸，本田憲胤，大洞佳代子

労作時呼吸困難感と易疲労性に着目した多発性筋炎の一症例
第 34 回大阪府理学療法学術大会 44745 大阪

5　富謙伸，尾川宏次郎，中嶋菜々華，水戸部浩之，堀竜次
姿勢変化が嚥下機能へ及ぼす影響-喉頭挙上と嚥下ポーズ時間の関連-
第 28 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2022/9/23-24 千葉

6　久津輪正流，本田憲胤，佐治隆彦
鏡視下授動術後早期に振動刺激による運動錯覚を用いた一症例
第 49 回日本肩関節学会 2022/10/07-08 横浜

7　浦慎太朗,甲斐太陽,本田憲胤
パーキンソン病患者における筋力の左右差と転倒の関連性
第 20 回神経理学療法学術大会 2022/10/15-16 大阪

8　辻本実奈美，藤原裕貴，池本郁花，甲斐太陽，本田憲胤，大洞佳代子
離床が遅延した心原性脳塞栓症患者 4 例の特性に関して
第 20 回神経理学療法学術大会 2022/10/15-16 大阪

9　藤原裕貴，甲斐太陽，本田憲胤
上肢優位の運動麻痺を認め歩行障害を呈した脳卒中患者に対して麻痺側肩甲帯に着目した一症例
第 20 回神経理学療法学術大会 2022/10/15-16 大阪

10　徳元翔子，久津輪正流，本田憲胤，井上順一朗
同種造血幹細胞移植患者の移植援護のサルコペニアの有無と運動機能・栄養状態との関連性についての検討
第 5 回日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会学術大会 2022/10/29-30 福岡

11　浦慎太朗,本田憲胤
混合性換気障害患者に対して NPPV と運動療法の併用により肺機能が改善した症例
第 32 回日本呼吸ケア･リハビリテーション学会 2022/11/11-12 千葉

12　三木陵平,本田憲胤,神月夏鈴,杉浦菜歩,伊元孝光,福井基成
洗髪動作中の体幹伸展姿勢により、 換気効率の改善を認めた COPD 症例
第 32 回日本呼吸ケア･リハビリテーション学会 2022/11/11-12 千葉

13　松岡森,大洞佳代子,本田憲胤
誤嚥・窒息リスク軽減への取り組み～アクシデント発生要因の分析とフローチャートの作成～
第 17 回医療の質・安全学会学術集会 2022/11/26-27 兵庫

14　中上和洋,豊浦尊真,野村知里,本田憲胤,大洞佳代子
非侵襲的換気療法導入後、ポジショニング指導が睡眠障害に有効であった横隔膜神経麻痺患者の 1 例
第 9 回日本地域理学療法学会学術大会 2022/12/03-04 北海道

15　野村知里,豊浦尊真,中上和洋,本田憲胤,大洞佳代子

訪問リハビリテーションにより身体機能が改善し、円滑な屋外活動の再開に至った間質性肺炎患者の 1 症例
第 9 回日本地域理学療法学会学術大会 2022/12/03-04 北海道

16　寺浦琴美，浦慎太朗，甲斐太陽，前場友希，大洞佳代子，本田憲胤
認知行動療法におけるリフレーミング介入が抑うつ・疼痛改善につながったパーキンソン病患者の一症例
第 36 回大阪作業療法学会 2022/12/10-11 大阪

【著書】

1　本田憲胤，神谷猛，大城昌平（編集）
新生児リハビリテーションメディカルプレス（東京練馬区）44732

2　本田憲胤，富謙伸
循環器障害を有する小児の理学療法におけるフィジカルアセスメントのポイント理学療法、39(7)44770607-616